

## コウノトリ「げんきくん物語 episode4」

生物多様性研究分科会 北村 清

### 1. はじめに

福井県越前市で2014年に放鳥された「げんきくん」は、今年で10歳となった。野生のコウノトリの寿命はデータが少ないためよくわかっていないが、コウノトリ市民科学の安否確認情報では2008年生まれの野生のコウノトリ（17歳）が今年も兵庫県豊岡市で営巣したとの情報があったことからすると、「げんきくん」も長生きをしてあと10年ぐらいは、雲南市で暮らし続けてもらえるものと願っている。

現在、日本に生息しているコウノトリは558羽（野外個体数 兵庫県立コウノトリの郷公園調べ）であるが、雲南市に営巣した「げんきくん」は、日本にいるコウノトリの中でも特にドラマチックな人生ならぬ鳥生を送っており、兵庫県立コウノトリの郷公園元園長である山岸哲氏が2018年に雲南市で初めての雛が誕生するまでを綴った『げんきくん物語』（講談社青い文庫）を出版されている。（図-1）

2020年度の研究報告では、「コウノトリげんきくんとその家族～大東町でのコウノトリの暮らし～」として、雲南市立西小学校の人工巣塔で営巣した「げんきくん」とその家族について雲南市での暮らし（2017年～2022年）を報告した。2024年の研究報告では、「げんきくん物語 episode3」として現在の「げんきくん」とその家族や、西小学校からわずか2kmしか離れていない雲南市大東交流センターの巣塔にいるペアについて報告した。

本報告では、2024年から2025年にかけて「げんきくん」とその周辺に起きた更なるepisodeを紹介する。

### 2. 「げんきくん」の妻「ポンスニ」との別れ、そして再婚

「げんきくん」が雲南市にやって来たのは、2016年11月である。その後、前妻「ななちゃん」との間に4羽の雛が誕生したが、「ななちゃん」は誤射により2017年5月に亡くなり、雛たちは兵庫県立コウノトリの郷公園に保護、人工飼育され、2017年7月に雲南市より放鳥された。

妻を亡くした「げんきくん」は、2018年から豊岡市生まれの「ポンスニ」とペアとなり、2024年までの7年間で26羽の雛が誕生している。「ポンスニ」の愛称は、韓国語でポンハ村のお嬢さんという意味で、韓国内で約1年間滞在した後、雲南市に飛来し「げんきくん」とペアになっていた。しかし、2024年9月に「げんきくん」と一緒にいた目撃情報を最後に行方不明となっている。観察を続けている西小学校の児童は校庭の巣塔での営巣が観られなくなるのではないかと心配していた。

しかし、2025年2月に入って「げんきくん」は、前年に大東交流センターの巣



図-1 「げんきくん物語」表紙

塔で3羽の雛を育てたことのある「こっとりちゃん」と新たなペアとなり、西小学校の巣塔で4月に雛が3羽誕生している。

兵庫県立コウノトリの郷公園によると、別の個体とペアになる理由は解明されていないが、人間でいう「再婚」に近い状況はこれまでにも確認されており、死別後の再婚だけでなく、ペアの双方が健在であっても「離婚」するケースがあるそうだ。

ここからは私の推測であるが、「ポンスニ」は「こっとりちゃん」との「げんきくん」の奪い合いに負けて負傷または死亡したのではないかと考える。なぜなら、以前「コウノトリ湿地ネット」へ視察に行った際、コウノトリの天敵はコウノトリ自身であるとの説明を受けたことがあるからだ。さらに、「ハチゴロウ」(図-2)の愛称で親しまれていた野生のコウノトリには、以下の記録が残っている。

#### 【2007年2月5日】

電柱でJ0290(雄)とバトルをした後、野上の田んぼの畦に降りたところです。その後飛び立ち、それ以来ハチゴロウの姿を見られなくなりました。

(2月25日死亡確認)



図-2 パンフレット

#### 3. 「こっとりちゃん」と別れた元夫(J0284)

雲南省大東交流センターで営巣していた「こっとりちゃん」の元夫(J0284)は、鳥取県氹高町で2021年に生まれた5歳の成鳥である。2024年9月までは雲南省で暮らしていたが、その後兵庫県加古川市に移動している。しかし、2025年2月には雲南省に戻ってきており、その間新しい嫁探しをしていたと推測される。新しい嫁は足環なしの雌であり、どこで生まれたのかは不明である。2025年4月には3羽の雛が誕生し、だいと(大東町民が命名)、海飛(かいと)、美空(みく)(大東小学校のみなさんが命名)と名づけられた。

#### 4. 雲南省加茂町で営巣した「げんきくん」の子「はなび」

2021年生まれの「はなび」は兵庫県養父市生まれの「青」とペアとなり、雲南省加茂町神原人工巣塔で今年2羽の雛が誕生し、天音(あまね)(三刀屋町民が命名)、神来(しんら)(加茂小学校のみなさんが命名)という名前である。

2025年は雲南省の3ヶ所で営巣し合計8羽の雛が誕生している。このことからコウノトリにとって棲みやすい環境であることがわかる。

#### 5. 「げんきくん」の家族

「げんきくん」は今年で9年連続、雲南省で雛が誕生している(表-1、表-2)。子どもが33羽、孫が53羽、ひ孫が12羽で合計98羽と大家族になっている。子

どもの中で島根県内での営巣場所は、「はなび」が雲南市加茂町、「にしき」が奥出雲町で、合計5羽の孫が誕生している。

表-1 「げんきくん」とその家族 1/2

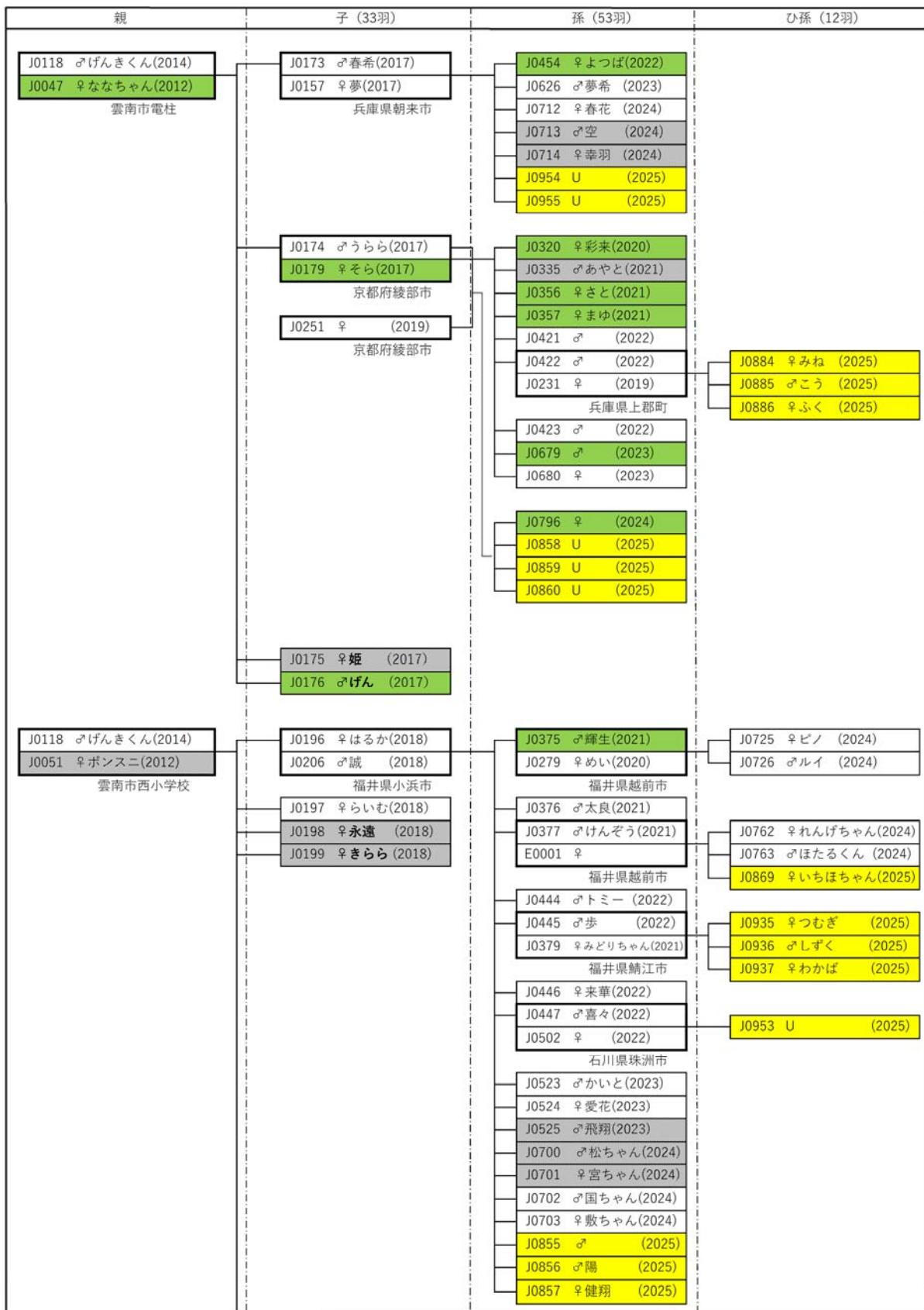
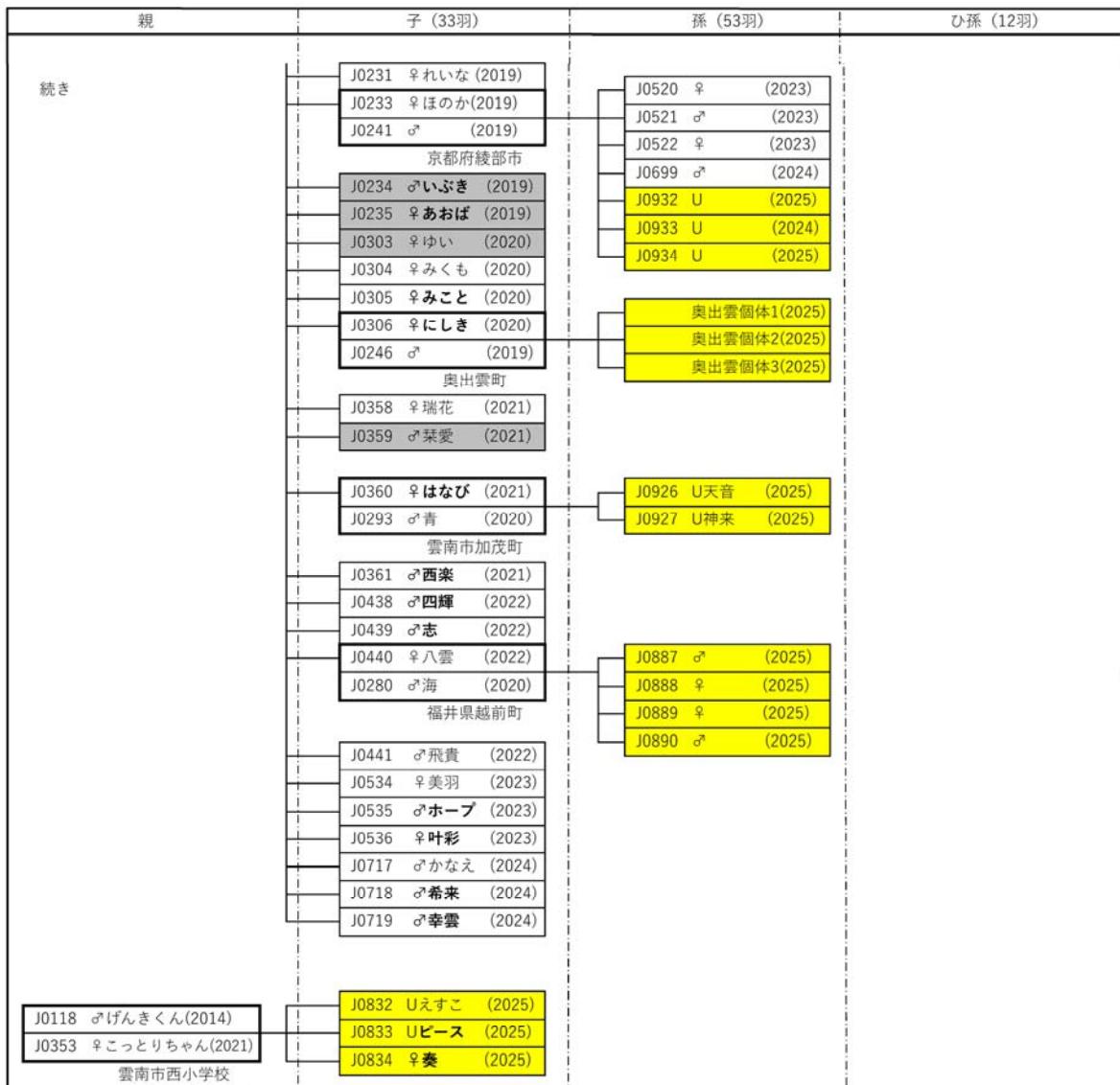


表-2 「げんきくん」とその家族 2/2



### 表示方法

識別番号 性別 愛称 (誕生年)

 太枠はペア UIは性別不詳 太字の愛称は西小学校の生徒が命名

太枠外 右下は営巣場所

 2025年誕生 31 羽 ペアは12組

 死亡 10 羽

 行方不明 14 羽 (コウノトリ市民科学で2025.1.1以降目撃情報がない個体)

### 6. おわりに

2025年から「げんきくん」は、3番目の嫁である「こっとりちゃん」と暮らしている。冒頭にも書いたとおり「げんきくん物語」はフィクション以上に奇想天外なストーリーとなっている。今回は原稿の都合で書かなかつたが、「こっとりちゃん(J0353)」の姉妹であるJ0354とその夫が大東町内で暮らしており、「げんきくん」たちの巣塔に攻撃したという情報がある。今後、更なる展開が期待されることから次回のepisode5で報告したい。